



2026年3月19日、[日本音響学会 研究発表会](#)の企業展示に参加いたしました。

今回の展示会では、私たちのソリューションの核となる両ブランドから、これからの音響計測・評価に欠かせない最新技術が展示されました。本コラムでは、会場でひとときわ注目を集めていたトピックスをレポートいたします。

1. “音を測らない”無響室の新しいカタチ：TASTING IN SILENCE

守谷商会ブースの左側でひととき異彩を放っていたのが、「TASTING IN SILENCE ～音を測らない無響室～」の展示です。

無響室といえば、通常は製品の騒音測定や音響評価を行うための設備です。しかし、ソノラテテクノロジーが鹿児島県の薩摩酒造・火の神蒸溜所に納入したこの無響室の目的は、「ウイスキーを味わうこと」でした。視覚と聴覚のノイズを極限まで遮断することで、人間の嗅覚や味覚を研ぎ澄ませ、ウイスキーのエlegantでスモーキーな香りに深く没入する——。これまでの音響業界の常識を覆す、無響室の全く新しい価値を提案する展示として、多くの来場者が足を止めていました。

(※本件の詳しい導入ストーリーは、ソノラテクノロジー公式サイトのコラム『[ウイスキーのための無響室](#)』でもご紹介しています)

2. 電動化・新エネルギー時代の安全な計測環境：防爆対応型無響室

一方、ブース右側で展示されたのが、現代の産業ニーズに直結する「防爆対応型無響室」です。先ほどの「測らない無響室」とは打って変わり、こちらは「危険を伴う対象を精緻に測る」ための設備です。

近年、EV向けの大型リチウムイオンバッテリーや水素関連機器など、発火や爆発リスクを伴う供試体の音響計測ニーズが急増しています。設備内に防爆構造を持たせることで、万が一の事故被害を最小限に抑えつつ、無響室としての高度な音響性能(暗騒音の低減・自由音場の確保)を両立。次世代モビリティ研究に不可欠な「安全な計測環境」として高い関心を集めました。



3. 計測ワークフローの革新：次世代データ収録ハードウェア & "HBK 2255 / 2245 (HBK)"

続いて、音響・振動計測の世界的リーディングブランドであるHBKを展開するスペクトリス株式会社のブースです。

■ 次世代データ収録ハードウェア「**HBK FUSION**」最新のデータ収録ハードウェア「HBK FUSION LN 3070-A-060」が展示されていました。直感的な操作性と、PC・モバイル端末とのシームレスな連携により、計測ワークフローを劇的に効率化します。また、クラス1サウンドレベルメータ「HBK 2255 / 2245」も、単なる騒音計の枠を超えた拡張性の高さを示していました。

■ 建築音響評価をスマートに「**HBK 2255 / 2245**」また、ポスターで大きく紹介されていたクラス1サウンドレベルメータ「HBK 2255 / 2245」も、ソノーラの製品と非常に親和性の高いソリューションです。単なるスタンドアロンの騒音計にとどまらず、モバイルアプリやPCと連携し、建築音響（防音室の遮音性能や室内音響など）のタスクに合わせた測定を直感的に実行できます。ソノーラが構築する高品質な音響空間の性能を、より手軽かつ正確に評価・証明するための強力なパートナーとなります。

おわりに: 守谷商会が提供する「**HBK × SONORA**」の強み

今回の展示を通して、音響計測の世界は「より安全に、精緻に測る技術（防爆無響室・HBKの最新計測器）」の追求はもちろんのこと、「人間の感覚を拡張する空間（ウイスキー用無響室）」へと、その可能性を大きく広げていることを実感しました。

株式会社守谷商会では、「SONORAの高品質・多目的な音響空間」と「HBKの最先端計測システム」を組み合わせ、お客様のあらゆる課題に寄り添う最適なソリューションをワンストップでご提供いたします。音響設備や計測器の導入をご検討の際は、ぜひ当サイトよりお気軽にご相談ください。